

## 平成 29 年度研修計画について（案）

テーマ：「相互理解」

（視点）

医療と介護をシームレスに提供するためには、医療や介護の関係多職種が日頃からお互いに知り合っている顔の見える関係が重要である。

多職種が相互の機能の理解や役割分担を通じ連携するためには、どのような取組を行うことが必要と考えられるか。

また、その際、異なる職種間での相互理解を促進するためにはどのような手立てが有効と考えられるか。

① 医療・介護関係者に対する研修

(ア) 多職種連携研修

- ・ 各団体の協力を得ながら、関係多職種が幅広く参加する比較的大規模な研修。複数の会場での同時開催も検討
- ・ 「顔の見える関係」作りを目的として研修終了後に懇親会を開催
- ・ 内容に関しては、講義形式、参加型など要検討

(イ) 医療関係者への介護に関する研修，介護関係者への医療に関する研修

- ・ 職種を絞り，50人程度の比較的小規模な研修。複数回の実施検討

<医療関係者に対する研修の例>

- ・ 介護保険制度の概要，介護保険で提供されるサービスの種類と内容，ケアマネジャー等の業務，地域包括ケアシステムを推進するための取組 など

<介護関係者に対する研修の例>

- ・ 各医療機関が担う機能（病院機能など）の相違などへの理解 など

(ウ) センターの役割の周知・啓発

- ・ 上記(ア)または(イ)と組み合わせた実施を検討
- ・ 函館市における医療と介護の連携の現状と問題意識の解説
- ・ 連携におけるセンターの役割の解説
- ・ センター職員による説明（出前講座形式等での対応）

② 市民への普及啓発

- ・ センター職員による，在宅医療や介護サービスの連携の仕組みやルールに関する説明や講演（高齢者大学や「ふらっとD a i m o n」などの高齢者が参集する様々な生涯学習機会を活用）